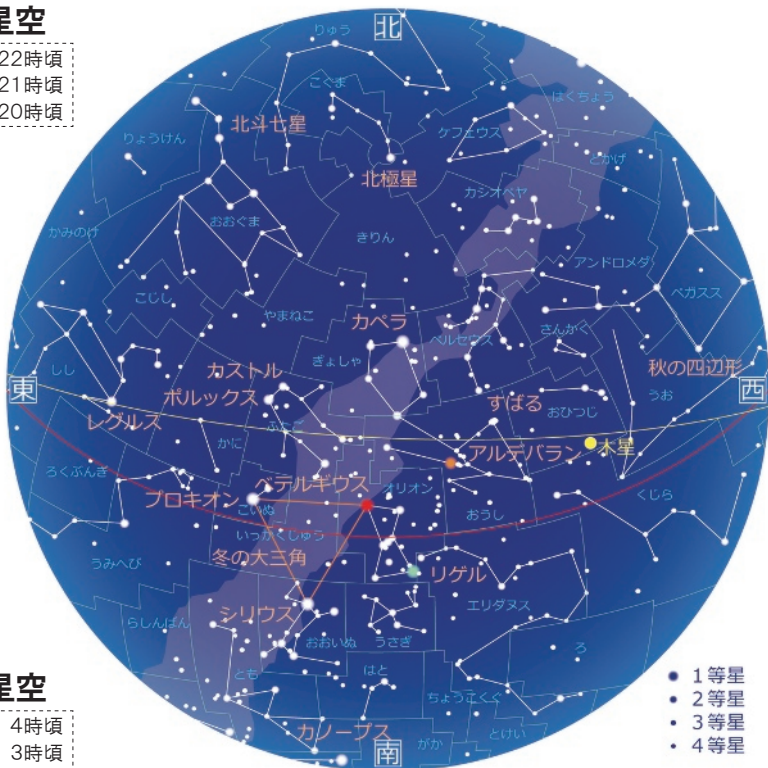


星空ガイド 1月16日～2月15日

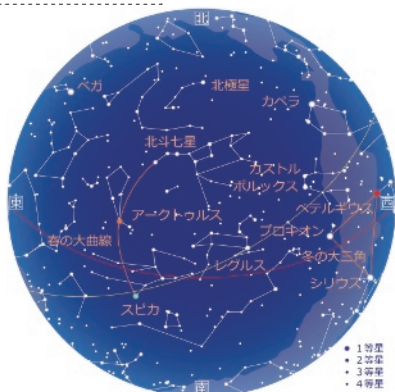
よいの星空

1月16日22時頃
2月 1日21時頃
15日20時頃



あけの星空

1月16日 4時頃
2月 1日 3時頃
15日 2時頃



[太陽と月の出入り(大阪)]

月	日	日の出	日の入	月の出	月の入	月齢
1	16	7:04	17:10	10:22	22:37	4.6
	21	7:03	17:15	13:04	3:06	9.6
	26	7:00	17:20	17:42	7:30	14.6
2	1	6:56	17:26	23:24	10:05	20.6
	6	6:52	17:31	3:37	13:04	25.6
	11	6:48	17:36	7:48	19:07	1.2
	15	6:44	17:40	9:50	23:50	5.2

※惑星は2024年2月1日の位置です。

星はすばる

2024年が明け、某局の大河ドラマが新しく始まりました。主人公は「源氏物語」の作者・紫式部ですが、同じ平安時代を生きた女性作家に清少納言がいます(大河ドラマにも登場するようですね)。彼女が綴った随筆「枕草子」には、「星は、すばる。彥星。夕づつ。よばひ星、すこしをかし。尾だになからましかば、まいて。」という一文があります。これは、“星といえは何といつても、すばる。彥星。金星。流れ星は少しいわね。尾さえなかつたらもつとよかつたのに”という意味です。

すばるは、おうし座に輝く散開星団で、プレアデス星団とも呼ばれています。今の時期、夜8時頃にちょうど南の空高いところ、頭の真上に輝きます。街明かりの少ないところでは、肉眼で5〜7個ほどの星がごちゃごちゃと集まっているようすが見られます。実際には1,000個以上もの星の集まりで、同じ星雲の中で生まれた若い星々だということが分かっています。果たして清少納言がこれらの星を実際に見ていたのか？については疑問があるようですが、平安時代の夜は、すばるもさぞよく見えたのでしょうね。

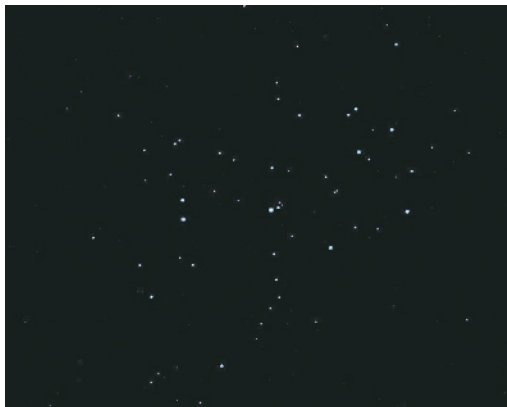


写真. すばる(プレアデス星団)
 写真撮影:学芸スタッフ 長尾 碧
 (2023/11/7、さびアストロパークにて)

大阪の街中でも晴れていれば、肉眼でも何となく分かります。目印になるのはオリオン座です。オリオンの三ツ星を線でつないで、それを上にのぼしていくと、すばるまでたどりつきます。双眼鏡をお持ちの方は双眼鏡でご覧いただくと、より多くの星が見られるはずですので、ぜひ探してみてください。

[こよみと天文現象]

月	日	曜	主な天文現象など
1	18	木	●上弦(13時)/土用の入 月と木星がならぶ
	20	土	大寒/月とすばるが接近
	24	水	月とポルクス、カストルがならぶ
	26	金	○満月(3時)
	27	土	月とレグルスがならぶ
	29	月	月が最遠(405,777km)

月	日	曜	主な天文現象など
2	3	土	●下弦(8時)/節分
	4	日	立春
	5	月	さそり座のアンタレスが月に非常に接近(10時57分ごろ)
	8	木	月と金星と火星がならぶ
	10	土	●新月(8時)/旧正月
	11	日	建国記念の日 月が最近(358,088km)
	12	月	振替休日
	15	木	月と木星がならぶ

西野 藍子(科学館学芸員)